

# 追悼

## 沼津出身の巨匠 原田真人監督

2025年12月8日、本市出身の映画監督・脚本家の原田真人さんが76歳で逝去されました。原田監督の功績と沼津との深いつながりを、ここに振り返ります。

Rest in peace



### 沼津から世界へー映画少年の出発点

原田監督には、沼津市制100周年にあたりメッセージをいただきました。故郷についてこんな言葉を残しています。「私が幼かった頃の沼津を思うとき、まず浮かぶのは映画館と洋食屋だ」。当時の沼津には映画館が複数あり、5歳の原田少年は大手町の沼津セントラル劇場で初めてスクリーンに魅了されました。また、洋食の記憶では桃中軒、沼津軒、沼津グリンが「原田家の外食御三家」で、味覚の原点は沼津グリンのカレーライスだったと語っています。さらに、千本松原・狩野川・香貫山を「魂の3点セット」と呼び、その景観を愛し続けました。自然とまちの暮らしが調和し、子供の頃に見た風景が今も息づいていることに、沼津の魅力を感じていたといえます。

沼津聖マリア幼稚園から沼津東高校まで、個性豊かな恩師たちに見守られながら育った日々も、監督の言葉の端々に感じられます。

そんな沼津での豊かな時間が、映画監督・原田真人を形づくりました。幼少期から年間100本を観るほどの映画好きで、1962年に東京・有楽町で観たアフション映画の名匠ドン・シーゲル監督による戦争映画「突撃隊」に感銘を受けて以来、映画を観るたびにメモや論評を書き続けたといえます。

沼津東高校を卒業後、写真専門学校やロンドンへの語学留学を経て映画評論家としてデビュー。そして活動の拠点を米国ロサンゼルスへ移し、映画の世界で経験を積んでいきます。駿河湾を望むまちで映画への情熱を育てた少年が、世界へ羽ばたいていきました。



### 故郷の風景をスクリーンに映す

1979年に日本で映画監督としてデビューしてからは、「クライマーズ・ハイ」(2008年)などで日本アカデミー賞優秀監督賞など数多くの賞を受賞し、日本を代表する映画監督として活躍されました。その作風は一言では括れないほど多彩で、ジャンルをまたぐたびに新たな魅力を見せてくれる監督でした。

原田監督の名を広く知らしめた作品が「KAMIKAZE TAXI」(1995年)です。俳優・役所広司さんとのコンビはここから始まり、計8作品にわたって作品づくりを共にしました。この作品はフランス・ヴァレンシエンヌ映画祭で準グランプリと監督賞を受賞するなど、国際的にも高い評価を受けました。

2012年公開の「わが母の記」は、原田監督と沼津の関係を語る上で欠かせ



ない作品です。作家・井上靖の自伝的小説を、役所広司さん・樹木希林さん・宮崎あおいさん主演で映画化したもので、井上靖の育った沼津市や伊豆市で、地域の支援を受けながら撮影が行われました。沼津市内では沼津御用邸記念公園と牛臥山公園内の小浜海岸がロケ地となりました。この撮影では静岡県、沼津市、伊豆市、沼津商工会議所、ハリプロ映像協会などが「映画『わが母の記』を支援する会」を立ち上げ、地域ぐるみでロケを支えました。

原田監督は、原作者の井上靖が通った沼津中学校(現・沼津東高校)の後輩にあたります。先輩作家の自伝的小説を、同じ学校の後輩監督が故郷の風景の中で映像化するーこれほど沼津らしい縁もなかなかありません。この作品はモントリオール世界映画祭の審査員特別グランプリを受賞しました。地元の支援を受けて生まれた作品が国際映画祭で栄誉を手にしたことは、沼津市民にとっても忘れられない出来事でした。

2022年公開の「ヘルドッグス」は岡田准一さん主演のアクション映画。千本郷林にある沼津倶楽部などがロケ地となり、地元でも大きな注目を集めました。沼津が誇る歴史ある建物がスクリーンに映し出され、沼津の新たな魅力を発信する作品となりました。

翌年には市制100周年記念事業として、シネマサンシャインららぽーと沼津

で「ヘルドッグス」の上映会とトークイベントが開催され、監督自ら沼津ロケの思い出を語っていました。

### 映画人として沼津と

国際的な活躍を続けながらも、原田監督は故郷への思いを持ち続けていました。燦々ぬまづ大使として4期8年にわたり、沼津の魅力を全国へ発信し続け、映画界の第一線に立ちながらも「沼津出身」であることを誇りにしていたそうです。

2024年11月には、俳優・磯村勇斗さんが企画した「しずおか映画祭」のプレ開催が沼津で行われました。オープニング作品には、「わが母の記」が選ばれ、原田監督も登壇。上映後には磯村さんとのトークセッションも行われ、ともに沼津で育った二人が映画や故郷への思いを語りました。

また、同日に開催された「めぐる沼津映画祭」のトークゲストとしても登壇しました。沼津のまちなかを会場に、公募した短編映画を上映する映画祭で、原田監督はそうした地域の取組にも温かく寄り添い、ステージに立つてくれました。映画を愛し、故郷を愛した原田監督。その思いは今も沼津の映画文化の中に受け継がれています。

観光戦略課  
0550505034-4747